



訪問ヘルパーがいなくなる？！

いくつかの難題を抱えて 2025 年が明けました。遅ればせながら本年もよろしくお願いいたします。

この 1 月 17 日に阪神淡路大震災から 30 年を迎えました。その後東日本大震災、熊本、能登半島と続き、今年になって南海トラフ大地震の可能性が 30 年以内 80% に引き上げられました。

そんな中、東日本大震災後「減災」という考え方が浸透してきました。完全に防ぐことはできないから、とにかく人命を守ろうというのがこの考え方の中心にあります。そのためには、まず「誰かが気にかけてくれる」システムを確立すること。ひとり暮らしや高齢夫婦のみの世帯が激増し、地域全体が超高齢化している今、けっこうな難問ですが、しっかり対応をとっていかねば被害を拡大させるばかりでしょう。被災弱者と言われる方々が利用される暮らしネット・えんにとっても大きな課題です。微力ですが、地域の皆さんと手を携えて準備を進めていきます。

そして 2025 年は団塊の世代が全員 75 歳以上になる節目の年でもあります。ところが介護職員は介護保険が始まって以来初めて離職者が入職者を上回りました。特に在宅介護は深刻で、事業所の倒産閉鎖は史上最高、訪問介護事業所ゼロかひとつの自治体が 2 割にもなる事態です。

えんの訪問介護ケアサポートえんには約 50 人のヘルパーが働いていますが、2 番目に人数が多い 70 代が辞めていかれると、依頼にこたえられないことが増えていくのは確実です。

そこでお願いです。えん、特に訪問介護ではフルタイム、パートタイム、利用者さん宅に自宅から訪問してそのまま帰宅することができる直行直帰型と多様な働き方を用意しています。お子さんが幼稚園に入ったからと週に 2、3 日数時間だけ働くことから始めて 10 年後には責任者になっていく、そんな職員がたくさん在籍しています。他の職種で定年を迎え、「役に立ちたい」とこの仕事に再挑戦される方もいます。介護や家族の病気、お子さんの学校行事で休暇を取ることに配慮していますので、働きやすい職場と言われています。未経験者には先輩がついて、独り立ちするまでサポートしています。何より利用者さんが待ちわびている仕事です。ひとりでも多くの方がこの仕事に興味をもっていただくことを願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

代表理事 小島美里

